



中部人懇だより

令和7年度 第3号
令和7年11月発行
中部地区人権教育懇談会

「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。
被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年（昭和46年）に発足しました。

「中部人懇」って
こんな会です！



【第3回懇談会 報告】期日：令和7年9月27日（土） 参加者：58名

第3回懇談会は、PTA、教職員、行政職員を対象に行いました。人権尊重の社会づくりの担い手となる子どもたちの育成に向けて、講義や討議をとおして自らを振り返り、それぞれの立場から具体的な取組について考えることをねらいとして開催しました。

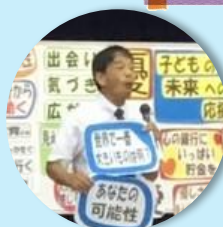
【講義】

子どもの育ちの中で大切にしたいこと ―こども基本法―
あーよかったな あなたがいて ～優しさという温かい貯金～

講師：教育サポーター 仲島 正教さん

人権を学ぶとは「人と人との温かいつながりを感じる」とされ、人の痛みが「わかることでかわる」など、大切なワードを示されました。

「先生と保護者は子どもを育てるパートナー」で、先生・保護者・地域が一体となって、子どもの気持ちに寄り添いながら関わっていくことが大切であるなど、ご自身の経験を交えながら具体的に話されていました。先生の明るさと力強い言葉から、たくさんの元気がもらえた時間でした。



あなたが大切！というメッセージが伝わるように！



子どもが、自分は愛されている
と感じられることが大切！

子どもの心は「こども銀行」
心の銀行にいっぱい貯金を！

そのために大人として
実践したい関わり方

◎10秒の愛

忙しくても10秒だけ手を
止め、子どもに向き合う

◎傾聴（どうしたの？）

共感（〇〇したかったんだ！）

自己決定（どうしたらいい？）

称賛（いいぞ！頑張ってるね！）

【グループ討議から】 ◆それぞれの立場からこれからどのようなことに取り組むか

- ・我が子をほめることができていなかったの、ほめる力を高めたい。
- ・人権部会での研修で、子どもに対する関わり方などを伝えていきたい。
- ・帰りの会のときに、子どもたちのいいところを見つけて、伝えていきたい。
- ・地元でのあいさつが交流のはじまり。子どもの応援団として地域環境づくりを組織化できたらいい。



【参加者の振り返り】

- 仲島先生とグループのみなさんに会えて、話せて良かったと思える、あたたかい懇談会でした。
- 大人から見た子どもの困った姿は、子どもにとっては SOS のサインだと捉えて、子どもの思いに寄り添った対応や言葉かけ、あなたが大切だよという思いを行動や視線、表情からも伝えられるように努力していきたいです。
- 今3人の子育てで悩んでいる事を今日まさにお話していただき、先生の話がすごく心に響きました。忙しい毎日ですが、10秒の愛、実践してみます。
- 我が子に対して、小さい頃から無償の愛を注いできたつもりでしたが、最近は条件付きの愛になっていたのではないかと反省しました。子どもの「心の銀行」にいっぱいの貯金を増やしていきたいと思いました。

子どもに関わる保護者、教職員、地域の大人が、子どもとの関わり方を振り返って見つめ直し、温かい心をもって、子どもたちと関わっていきましょう。

